

がんセンター研究所の進捗状況

1 2025年度の実績結果及び評価と2026年度の主な取組

2025年度の実績結果及び評価	2026年度の主な取組（重点事項）
<p>基本方針1 県内の中核機関としての役割・機能の発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内のがん診療連携拠点病院の院内がん登録情報などから得られるがん医療評価結果を取りまとめた文書の情報を更新して2024年度版を発行し、各医療機関で有効活用できるようフィードバックするなど、県内の診療レベル向上に資する情報の発信に努めた。(1-6) ・重点プロジェクトについて、外部評価に基づく課題見直しにより新規課題を含む第3期1年目の6課題を選定し、研究を推進した。(1-1) ・11月にセンター医師、研究員全員参加の病院・研究所合同セミナーを開催し、異分野融合領域の分野長の講演や重点プロジェクトの情報共有により、病院・研究所の連携と共同研究の促進を図った。(1-2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、県内のがん診療連携拠点病院のがん医療評価結果を更新するとともに、愛知県がん診療連携協議会・愛知県がん情報のページで公開可能な範囲の掲載に関して、国の方針に従い検討する。(1-6) ・重点プロジェクトの第3期2年目も公募による課題見直しを行うことで、総合がんセンターの機能強化を図る。(1-1) ・全員参加の病院・研究所合同セミナーを年1回以上開催し情報を共有することで、病院・研究所の共同研究を推進し成果発出を促進する。(1-2)
<p>基本方針2 高度で良質な医療の提供とエビデンスの発出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオバンクの試料・情報のセンター内部での利活用例や内外部からの利用相談例の増加に対応した。また、バイオバンクの試料・情報を用いてセンターとの共同研究を実施した外部機関が論文成果発出に至り、利活用の活性化が図られた。(2-1、2-4) ・重点プロジェクトや全ゲノム解析等実行計画参画で得られた試料・情報を用いた外部研究機関との共同研究が進み、研究成果の発出につながった。(2-3) ・研究所が病院と協力して行うがんの全ゲノム解析等実行計画への患者リクルートとその検体管理での経験を通じて、がん組織試料の収集体制の検討情報の蓄積を進めた。(2-2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、バイオバンクの利活用を促進するとともに、重点プロジェクトの実施、全ゲノム解析等実行計画への参画で得られた試料・情報を用いた共同研究を進め、さらなる論文成果発出によるエビデンス創出や大型研究費獲得につなげる。(2-1、2-2、2-3、2-4)
<p>基本方針3 県内の医療や研究の中心となる人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MD アンダーソンがんセンターとの共同研究は、分野長の異動により終了した1件の後継課題を選定・開始したことで、3課題体制を維持し、研究を進めることができた。(3-5) ・分野長が、研究員・リサーチレジデントのリクルートや、共同研究先などへの人材派遣打診に取り組んだことで、若手研究者の受け入れが促進された。(44人→47人)(3-2) ・バイオインフォマティクスの国際学会など発表に選ばれることが困難な学会での発表を含め、積極的な若手研究者の学会発表機会の確保を達成できた。(3-1) ・ゲノム疫学研究の国内拠点としての試料・情報の収集整備など、大型多施設共同研究につながる研究環境整備を進めた。(3-5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、MD アンダーソンがんセンターとの共同研究やその他の研究機関との連携を通じた橋渡し研究の推進や、がん予防研究・ゲノム疫学研究の国内拠点整備を行うとともに、これらを担う若手研究者の受け入れと育成を図る。(3-1、3-4、3-5)
<p>基本方針4 取組の見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、SNS、公式YouTubeチャンネルを用いた情報発信の継続により、幅広い層に対して周知することができた。(4-1) ・坂口大阪大学特別栄誉教授のノーベル賞受賞を糸口に、当センターでの受賞記念講演会を開催したことにより、研究所の広報につなげることができた。(4-1) ・高校生実習に加え、本年度のセンター公開講座での講演、2026年2月4日のワールドキャンサーデーのライブセッションでの講演、愛知県内の小中学校でのがん教育出張講義等に貢献できた。(4-2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ホームページ、SNS、公式YouTubeチャンネルを用いた情報発信、高校生実習の継続、病院と協力した公開講座の企画の充実を図る。(4-1、4-2)
<p>基本方針5 持続可能な安定した経営基盤の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間接経費の効率的運用により、動物実験施設の改良、修繕や共通機器の整備を行うとともに、研究技師による管理体制を強化し、研究所のソフト・ハードインフラの充実を図った。(5-2、5-3) ・外部スーパーコンピュータを継続利用するとともに、機器の利用促進のための技術講習会を開催するなど、研究機能向上に努めた。(5-1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、間接経費の効率的運用によりソフト・ハードインフラ整備を進め研究環境の維持・向上を行うとともに、新たに分野長が着任する分野や異分野融合研究領域を核に、研究所、病院でのイノベーション創出に資する共同研究を立案し、研究費の獲得につなげる。(5-1、5-2、5-3、5-4)